

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	03-01-03-03
事務事業名	定時制高等学校運営支援事業		
事業開始年度	根拠法令・要綱等 岡山県備前市立片上高等学校学則外		
総合計画	大項目 基本目標	地域文化と人が輝くまちづくり	問合せ先
	中項目 基本施策	未来を支える人材を育むまちづくり	担当課(室)
	小項目 施策	高等学校	職・氏名
			電話
			64-1840

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	備前市立片上高等学校在籍生徒及び教職員
目的(何のために)	備前市立片上高等学校の教育活動を援助し、個に応じた教育の充実を図る。
行政活動(どのような方法で)	教科書給与及び教師用教科書・指導書の給付、部活動に対する補助金の適用、学校運営等に関する指導等
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	夜間定時制高等学校に在籍する生徒が自らの個性を生かし、将来に展望をもてるような教育を施す。

事業の実績						
活動実績	実施項目		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	教科書給与費補助対象者		人	87	88	96
	部活動補助金対象部数		部	4	4	2
	部活動参加生徒数		人	33	24	21
	卒業生数		人	16	13	14
	直接事業費			547	498	594
	人件費		千円	2,290	1,080	108
	事業費計			2,837	1,578	702
	国県支出金					
	受益者負担		千円			
市一般財源			2,837	1,578	702	
必要人員		人	0.25	0.10	0.01	
結果指標	結果指標名		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	教科書給与費補助対象者		説明	教科書給与費の補助対象者(勤労青年)		
	結果指標量	人		87	88	96
	対前年比	%		-	101.1%	109.1%
	活動コスト	円		533,840	273,000	343,000
	単位当たりコスト	円		6,136	3,102	3,573
	部活動参加生徒数	説明	部活動に参加している生徒数			
結果指標量	人		33	24	21	
対前年比	%		-	72.7%	87.5%	
活動コスト	円		134,500	107,000	20,000	
単位当たりコスト	円		4,076	4,458	952	

事業の成果			
成果指標名	卒業生数比率(%)	式又は説明	卒業生数 / 入学者数 × 100
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	84.00	62.00	50.00
対前年比		73.81%	80.65%
到達目標値	85.00	到達目標年度	毎年

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A-E>	B
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	課題認識	県立高等学校の再編整備により、様々な事情のある生徒の学びの場を提供することのできる公立高等学校が少なくなっており、片上高等学校に対するニーズは高まっている。夜間定時制高校に通うことで、新たに進路模索している生徒に対して支援を行うこの事業は必要であると考える。
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である		
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している		
行政活動	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	課題認識	すでに、コストの削減による効率性の追求は限界に来ていると考えられ、今後は、指導の充実による学習環境の整備をはかっていく必要がある。また、将来的には受益者負担と公費のバランスも検討していく必要がある。
	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
市の関与	<input type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である	効率性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい		
コスト	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	課題認識	すでに、コストの削減による効率性の追求は限界に来ていると考えられ、今後は、指導の充実による学習環境の整備をはかっていく必要がある。また、将来的には受益者負担と公費のバランスも検討していく必要がある。
	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
手	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている	有効性評価<A-E>	C
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている		
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
職	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	課題認識	入学者は増えているが、それに対応する施設や教職員の面で充実を図ることが難しい状況であり、生徒のニーズに対応することが困難な状況である。よりよい在り方を模索していく必要がある。
	<input type="checkbox"/> 目的達成度		
	<input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している		
	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである		
目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識	入学者は増えているが、それに対応する施設や教職員の面で充実を図ることが難しい状況であり、生徒のニーズに対応することが困難な状況である。よりよい在り方を模索していく必要がある。
	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している		
	<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	課題認識	入学者は増えているが、それに対応する施設や教職員の面で充実を図ることが難しい状況であり、生徒のニーズに対応することが困難な状況である。よりよい在り方を模索していく必要がある。
	<input type="checkbox"/> 市民参画度		
	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する		

平成20年度の状況		説明	施設及び人員確保の面で改善が難しい中、魅力ある学校づくりをすすめていくための支援が必要である。研究推進等指導面での支援の充実を図っていく必要がある。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 100	結果指標量	30
成果指標量	85.00		

総合評価		評価区分<A-E>	C
定時制高等学校に対するニーズが高まっている中、この事業は必要不可欠なものである。しかし、施設面や人的な面での大幅な改善が困難な現状から、指導面での充実を図っていく必要がある。在籍生徒にとって魅力ある学校としていくことを目的として、学習指導の内容を見直し、授業改善を図っていくための指導の充実を図りたい。			

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	指導訪問の実施	平成21年度	授業改善がはかれ、魅力ある授業を行うことができる。